

やっかいな外来種 駆除作業



県道沿いに残るイタチハギ

6、7月の定例日は開花前の外来種駆除作業を重点に行っていますが、一度侵入した外来種を完全に除去するのは至難の業です。

猪の瀬戸湿原で最も顕著だった外来種はマメ科のイタチハギでした。

これについては保全活動初期の段階から抜き取り、刈り取りを行ってきましたが、まだ、県道沿いには相当数生き残っています。

ここ2、3年は輪地切りをしたところにアメリカヤマゴボウ（ヨウシュヤマゴボウともいう）が目立ち始めました。

これらの駆除は開花期の前に除去することが効果的で、今年もかなり刈り取りました。もう素手で抜き取る人海戦術ではなかなか追いきませんが、除草剤を使わず自然植生を回復させようと懸命の努力を続けています。イタチハギは株が少なくなってきたような気がします。

最近、猛威を奮って繁殖している特定外来指定植物のオオキンケイギクもエコーラインの塚原側まで迫ってきています。間違っても、種子を運びこむことのないよう注意しておきましょう。

セイタカアワダチソウも湿原周辺部に生育していますが、群生地となるような状況は見られません。セイヨウタンポポ、ブタナなども地中深く根を下ろしますので、根絶は難しくなります。



実をつけたアメリカヤマゴボウ 刈り取った外来種は道路まで運び出して市の環境課に処分を依頼する